

## 四谷の

# 千枚田だより



第216号

「四谷の千枚田だより」  
発行。同十六  
年七月、サミ  
ットお助け  
隊が結成さ  
れる。同年、

## 回想（三十一年を振り返って）

平成三年九月二十三日は私の五十歳の誕生日で「五十にして天命を知る」を格言に千枚田保存活動を開始。現在八十一歳にもなる。

平成六年、全国展開を視野に、愛知国体会場の「やまびこの丘」で写真展を開催。ふるきゃらの平塚女史と棚田保存意欲を語り合ったが、その時は翌年開催のサミットの話は無かった。同八年に二回目の写真展を開催、これを観た「河西 忍」は恵まれた環境でコメづくりを開始。また、NHK「日本まんなか紀行」に取材協力。同十一年「町民の主張」農道が完成した暁には、棚田サミットを招致したいと提言。同十三～十五年「ふるさと水と土ふれあい事業」で農道等施設整備が完了。軽トラがスイスイ農作業性が向上。来訪者が増えだした。同十四年、石川県輪島の棚田サミットで「四谷の千枚田のサミット開催」を打診される。十五年、岐阜県坂折棚田で開催決定、決定の瞬間、参加者は鞍掛山麓千枚田保存会の法被を着て猛アピール、連谷魂が炸裂、忘れられない。同十五年、農村アメニティコンクール農林水産大臣賞受賞。同年、「四谷の千

東海農政局主催「百万都市シンポジウム」で俳優菅原文太さん、小山舜二はパネラーとして出席。同十七年、愛知万博 身平橋組「はね込み」披露。思い出に大林宣彦映画監督と地球の宝見つけた〜で対談。万博映画「水の妖精」に出演。同年十月、第十一回全国棚田（千枚田）サミット開催。緑と水と心のオアシス。地域ぐるみ、特に若者たちのサミットお助け隊の活躍が全国的に大きな評価を受ける。同年、青年塾研修会講師、政・経済界に名を馳せた松下政経塾の上甲副塾長による青年塾の塾生の研修会。同年、与良木峠でニホンジカを目視、あつという間に旧鳳来町全域に拡大した。同十八年、横浜ゴム新入社員研修受け入れ。豊橋調理製菓専門学校での農学習開始。同、連谷お助け隊主催で「お田植感謝祭」開催、沿道にロウソクを灯す。同年、「アストラゼネカ社地域に貢献」の受入れ、四年間継続（毎年、七十名～百二十名の若手社員が労働奉仕、スタッフは目の毒、心の栄養になった。同十九年、新城ラリーにおいて天日干し「ミネアサヒ」のエコ純米酒を予約販売。同二十一

年、「あいち森と緑づくり」の助成を五年間受ける。地域集落の生活道周辺の除伐等を積極的に行う。同十二年、「田園自然再生活動コンクール」大臣賞受賞。同年、月刊食料と安全 寄稿「棚田の保全とモリアオガエルなど希少種の保全・再生に向けて」。同年、「電柱移転」千枚田を縦断している電柱をCOPLIO開催第十回締約国会議(CO10)において四谷の千枚田が公式エクスカースヨンの場となる。なお、愛知・名古屋への招致に貢献。同二十四年、NHK「小さな旅」放送。同、東日本大震災「福島っ子」受入れ。同二十五年、「でんでんちゃん」愛知県第一号小水力発電が「ふれあい広場」に完成。同二十六年、映画「あん」の撮影に協力。樹木希林さんを地域住民に紹介。同年、イギリスBBCモリアオガエル長期撮影。世界発信。同二十七年、第一回パワートレイル開催協力。同、サミット開催十周年記念シンポジウムを開催。二百十名参加。同二十八年連谷小学校閉校記念式典。同、大型ドラマ「リーダーズII」撮影協力。村の若い衆やお母さんも役者になって出演。当日はお手伝いの地域住民や俳優を含めて総勢百二十名の面倒をみる。同二十九年、リアルかかし設置。（八雲だんご、チームTAKOの協力）以降毎年設置。同三十年、千枚田絵画

コンクール開催（小中学生を対象に募集）継続。同年、二十四号台風で千枚田の稲架全部が倒壊。令和元年、中部環境推進五市サミットにおいて「四谷の千枚田環境保全活動」と題して小山舜二基調講演。同年、「デイスカパーむらの宝」首相官邸において授賞式。同二年、全国農村振興技術連盟主催中電大ホール「地域活性化に向けた取り組み」と題して講演。同年、内閣府 地域活性化伝道師に任命される。同年、季刊誌農村振興 寄稿「むらの宝」。同二年、小学校四年生の教科書「特別教科道徳」愛知版、明るい心に、同「あいち発見、コレ、なぐんだ？」にも掲載される。同年、四谷の千枚田地域振興協議会が発足。同年、NHK「朝イチ」放送。



## 賑わいを見せるリアル案山子

設楽町津具のチームTAKO(六名)は欽ちゃん香取慎吾の仮装大賞に十七回連続出場、二回の準優勝を果たしている。今年はコロナ禍のため、一名のみの出場であったが、見事、大賞を受賞した情熱あふれるメンバーの集まりである。



きつかけは、千枚田の維持、保存に大きな理解、協力を頂いている丸八製菓(八雲だんご)鈴木社長さんのお声掛けで、チームTAKOも千枚田の活性に少しでもお役に立てればと、毎年、協力を頂いている。

平成二十九年には、千枚田の婆あ

は、毎日、赤い自転車と同じ時間に配達に来る郵便屋さんとお話をするのが何よりの楽しみだそうだし、二年目は、脱穀した粃を吠に入れ、大八車に積み込み運ぶ、老夫婦。三年目は、背負板で運ぶ老夫婦と一服するなまくら爺。四年目は、大きなおにぎりを頬張る百姓衆の「いっぷく」。五年目の今年も、釣瓶で井戸

水を汲み、スイカを冷やかす「おおいスイカは冷えたかのお…」とアイデア満載のリアル案山子で、今では四谷の千枚田のアイドル(風物詩)にもなっている。

## 大ものイノシシの捕獲

八月二十三日早朝、千枚田の古宿の田んぼにイノシシが侵入、稲を踏みじった。前々日の朝の散策時、薄闇の中、古宿の栗畑から飛び出すイノシシにビックリ、家路に向かう



合戸の荒廃農地で「ぬたうち」跡を確認。連合区松下集落でも同時期に稲田や耕地に出没、被害を及ぼした。

八月二十七日、合戸地内で六十kgを超す大物の雄個体を「くくり罠」で捕獲。豚コレラの関係から個体の有効活用は自粛、石灰を撒き、丁寧に埋没、血液は検体として市担当課に提出した。(夏目保夫氏協力)

一昨年頃から個体数が減少、久々に捕獲したイノシシは、まだ他にも居るものか、その動向を探るため、捕獲後の出没、被害などの聞き取り調査の結果、被害の無いことから、六十kgを超す大ものイノシシのエサを求めての行動範囲は、ほぼ連谷地区一円に渡ると推察した。

精魂込めて、コメつくり邁進する千枚田の百姓には、獣害被害ほど悲しいことはない。平成二十九年に施行した侵入防止柵の効果は大きい、市道や私道の関係から一部が未完成で、其処からの侵入を食い止めたのは誰しも思い、願っている。

## 直払い生産活動の実施

八月二十八日、四谷集落協定(三十九戸)は、令和三年度第二回生産活動として農道、水路、周辺の草刈り、また、無住地の荒廃農地や耕作放棄地の草刈りを三班に分かれ実施した。なお、水源近くで豪雨が起因した倒木を伐採、片付けも行った。

## 実りの秋稲刈り

九月に入り、ほぼ毎日雨の日が続き、日照不足で流石の千枚田も黄金色に色よく実らない。例年では九月初めには稲刈りが始まるが、今年はやや遅れ気味で、高低差二百mある上部はかなり遅れている。上旬に、麓付近で、雨間をみてやっと刈り取った程度である。

九月九日、豊橋調理製菓専門学校が稲刈りが予定されていたが、昨夜来の雨で千枚田の概要説明に予定変更。学生たちが、自ら植えた稲の生育観察に留まってしまったが、稲の生長の速さにビックリしていた。



行 令和三年九月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二